



BLUE SKIES FOR
OUR CHILDREN

企業活動に関する取り組み

企業活動における環境負荷低減の取り組み

● 2020年に向けた方向性

Hondaは10年ごとに次の10年に向けた方向性を定めています。2010年には、2020年に向けての方向性を「良いものを早く、安く、低炭素でお客様にお届けする」と決めました。そして、この方向性に沿って、気候変動問題、エネルギー問題への対応だけでなく、資源循環問題、水資源問題、環境負荷物質問題への対応に取り組んでいます。



● 2014年度～2016年度 企業活動における中期環境取り組み計画

Hondaでは3年間をひとつの「中期」として、中期ごとに事業計画や営業計画を策定し、その方針に沿った施策を実行しています。日本地域でも同様に「企業活動における中期環境取り組み計画」を策定。その中では、2020年に向けた方向性で定めている4つの問題への対応について、それぞれCO₂排出量、廃棄物等発生量、水資源使用量、VOC^{※1}排出量の低減目標を設定し、企業活動全体での環境負荷低減に取り組んでいます。

2015年度は、2014年度から2016年度までの中期3カ年の2年目に当たる年度です。日本地域がこの中期3カ年の企業活動における中期環境取組計画で掲げている、2020年に向けた取り組みの方向性に沿った目標、および2015年度までの進捗は次ページ以降をご覧ください。

※1 VOC(揮発性有機化合物):主に塗料やシンナー中に含まれる有機溶剤に由来する光化学オキシダントの原因となる化学物質



BLUE SKIES FOR OUR CHILDREN

日本国内の環境取り組み報告2016
Honda Environmental Activity Japan 2016

企業活動に関する取り組み

企業活動における環境負荷低減の取り組み

[2014年度～2016年度 企業活動における中期環境取り組み計画]

1

気候変動問題、
エネルギー問題への対応
製品ライフサイクル観点で
全体の取り組みを強化

取り組み目標

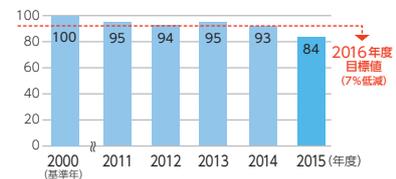
売上高当たり
CO₂排出量原単位を
2016年度までに7%低減
(2000年度比)

対象範囲: 企業活動
(Hondaと主なグループ会社※1)

2015年度までの進捗

16%低減
(2000年度比)

■企業活動のCO₂排出量(売上高当たり)



〈実行施策〉

- 工程ごとのエネルギー使用量の見える化で、効率よい生産システムへ見直し
- 「Honda Green Action」のグループ全体への展開(節電、空調運転時間の改善、効率と快適性のバランスの取れた空調方式)
- 高効率機器の導入(LED照明、熱源機器、ボイラー、IPMモーター)

取り組み目標

輸送領域でのCO₂排出量低減

輸送導線および輸送形態の見直し /
コンテナ詰率の向上および
コンテナラウンドユース継続

対象範囲: 省エネ法荷主範囲

2015年度までの進捗

輸送領域CO₂排出量の
低減施策の継続展開

〈実行施策〉

- 取引先との連携で輸送の効率化
- 船・鉄道を活用した輸送形態への転換でモーダルシフトの拡大および船舶輸送率の向上
- コンテナ詰率の向上とコンテナラウンドユース継続

※1 Hondaと主なグループ会社: 本田技研工業(株)と(株)本田技術研究所、ホンダエンジニアリング(株)、(株)ホンダアクセスの範囲



BLUE SKIES FOR OUR CHILDREN

日本国内の環境取り組み報告2016
Honda Environmental Activity Japan 2016

企業活動に関する取り組み

企業活動における環境負荷低減の取り組み

[2014年度～2016年度 企業活動における中期環境取り組み計画]

2

資源循環問題への対応
3R(リデュース・リユース・リサイクル)のさらなる進化

取り組み目標

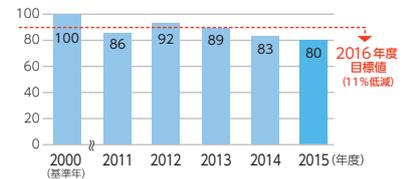
売上高当たり
廃棄物等発生量原単位を
2016年度までに11%低減
(2000年度比)

対象範囲: 企業活動
(Hondaと主なグループ会社※1)

2015年度までの進捗

20%低減
(2000年度比)

■ 企業活動の廃棄物等発生量(売上高当たり)



〈実行施策〉

- プレス端材の活用拡大
- 内外装リターンブルケースの適用拡大による包装資材低減
- 歩留り向上で副産物発生抑制

取り組み目標

廃棄物直接埋立ゼロ化の継続

対象範囲: 企業活動
(Hondaと国内連結全事業所)

2015年度までの進捗

Hondaと国内連結
全事業所(119/119社)で、
廃棄物直接埋立ゼロ継続

※1 Hondaと主なグループ会社: 本田技研工業(株)と(株)本田技術研究所、ホンダエンジニアリング(株)、(株)ホンダアクセスの範囲



BLUESKIES FOR OUR CHILDREN

日本国内の環境取り組み報告2016
Honda Environmental Activity Japan 2016

企業活動に関する取り組み

企業活動における環境負荷低減の取り組み

[2014年度～2016年度 企業活動における中期環境取り組み計画]

3

水資源問題への対応
水資源使用量の最少化

取り組み目標

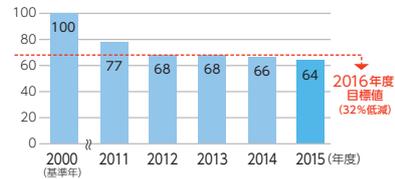
売上高当たり
水資源使用量原単位を
2016年度までに**32%低減**
(2000年度比)

対象範囲: 企業活動
(Hondaと主なグループ会社※1)

2015年度までの進捗

36%低減
(2000年度比)

■ 企業活動の水資源使用量(売上高当たり)



〈実行施策〉

- リサイクル水、雨水の活用継続
- 節水活動の推進継続
- スマートシャワーテスター開発

4

環境負荷物質問題への
対応
生産工程での
VOC※2排出の低減

取り組み目標

製品塗装からの
VOC排出量低減

2015年度までの進捗

VOC排出量の
低減施策の継続展開

〈実行施策〉

- 「Honda Smart Ecological Paint」の展開
- 4コート・3ペーク溶剤塗装から、3コート・2ペークの中塗り工程を廃止した水性塗装に
- 塗装工程における低VOC塗料の導入
- 研究開発段階の試作モデルにおける低VOC塗料の採用

※1 Hondaと主なグループ会社: 本田技研工業(株)と(株)本田技術研究所、ホンダエンジニアリング(株)、(株)ホンダアクセスの範囲

※2 VOC(揮発性有機化合物): 主に塗料やシンナー中に含まれる有機溶剤に由来する光化学オキシダントの原因となる化学物質